



中国たいまつ計画紹介

In 東京国際フォーラム

中国科学技術部たいまつセンター

唐鳳泉

2009年9月1日





中国たいまつ計画紹介

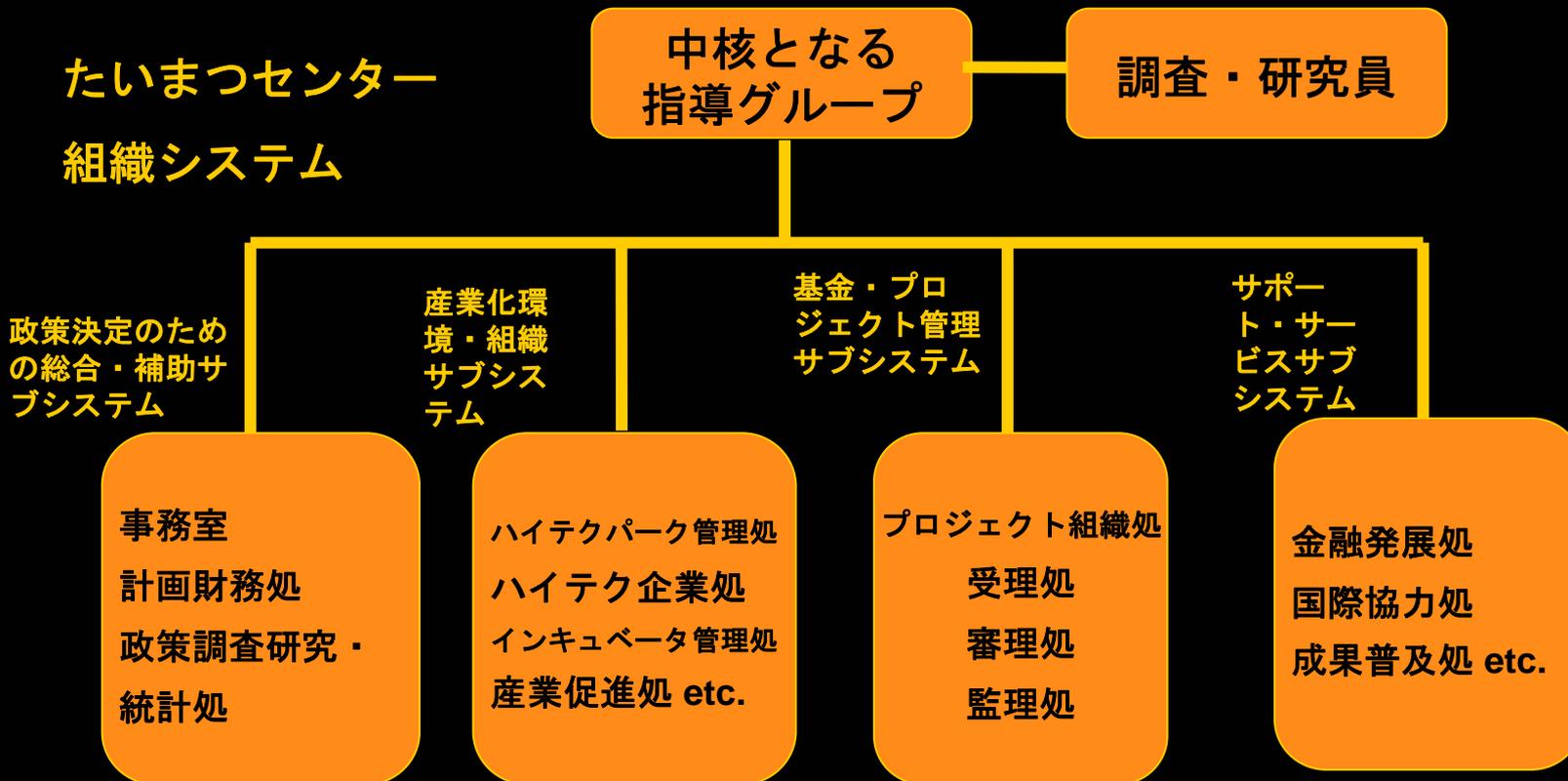
- 科学技術部たいまつセンター紹介
- 発展過程
- 過去の業績
- 成功経験
- 今後の重点任務



科学技術部たいまつハイテク産業 開発センター



- 設立時期：1990年10月14日
- 所属：科学技術部直属の事業部門 職員総数：108名





たいまつセンターのハイテク産業化業務

- 基地（拠点）の建設：
 - 国家ハイテク産業開発区、ソフトウェア産業基地、特色産業基地、科学技術企業インキュベータ、大学科学技術パーク etc.
- サービス機関への指導とサポート
 - 生産力促進センター、技術移転モデル機関、創業投資機関、技術取引機関
- プロジェクトと経費のサポート
 - たいまつ計画、科学技術型中小企業技術イノベーション基金、科学技術型中小企業創業投資導入基金 etc.
- 政策実施
 - ハイテク企業、技術譲渡、科学技術企業インキュベータ、大学科学技術パーク、未上場企業株式譲渡代理 etc.
- 成果普及と総合サービス
 - 発展戦略研究、国際協力、金融促進、管理研修、統計分析と政策調査・研究 etc.



たいまつセンターのハイテク産業化業務



政策実施:

ハイテク企業、技術譲渡、科学技術企業インキュベータ、大学科学技術パーク、未上場企業株式譲渡代理 etc.

企業イノベーションと産業化

サービス機関への指導とサポート:
生産力促進センター、技術移転モデル
創業投資機関、技術取引機関

成果普及と総合サービス:
発展戦略研究、国際協力、金融促進、管理研修、統計分析 etc.

基地建設:

国家ハイテク産業開発区、たいまつソフトウェア産業基地、たいまつ特色産業基地、科学技術企業インキュベータ、大学科学技術パーク etc.



プロジェクトと経費サポート: たいまつ計画、科学技術型中小企業技術イノベーション基金、創業投資導入基金 etc.



中央指導者がハイテク産業化と その環境構築を語る



ハイテクを発展させ、産業化を実現

-----トウ小平 1991年4月、たいまつ計画に対する題辞



「ハイテク産業を発展させ、科学技術成果の商品化・産業化・国際化を促進」

-----江沢民 1993年8月、たいまつ計画実施5周年に対する題辞



経済政策と科学技術政策の相互協調を強化し、技術イノベーション、ハイテク発展、産業化実現を推進させる政策環境を構築しなければならない。産学研の結合を促進し、ハイテク産業発展と伝統産業の最適化とレベルアップを加速させなければならない。

-----胡錦濤 2004年12月27日、中共中央政治局学習会議での演説から引用



20年の発展過程



- 1985年7月、中国科学院と深セン市が共同で中国初のハイテクパークを設け、1988年5月には国務院が中関村電子街を基とした最初の**国家ハイテクパーク**——北京新技術産業開発試験区の設立を許可。
- 1986～1989年、中共中央と国務院による科学技術体制改革の決定を貫徹するため、たいまつセンターを設け、**たいまつ計画**の実施開始。
- 1988年、中国初の**科学技術企業インキュベータ**が武漢市東湖に誕生し、1990年には中国初の**大学科学技術パーク**が東北大学に誕生。
- 1991年3月、国務院が**国家ハイテクパーク**の設立を許可し、関連の政策を発表。
- 1992年7月、最初の**生産力促進センター**——山東生産力促進センターの設立を許可。
- 1995年、最初の**国家たいまつ計画ソフトウェア基地**——東大ソフトウェアパーク、および最初の**特色産業基地**—江蘇海門新材料産業基地の設立を許可。
- 1999年6月、国務院が**科学技術型中小企業技術革新基金**の設立を許可。
- 2000年2月、科学技術部、財政部、国税総局が共同で『技術契約認定登録管理規則』を発布。
- 2003年10月、科学技術部が『**中国海外科学技術パーク**試行業務指導に関する意見』を発布。
- 2007年6月、科学技術部、財政部が共同で科学技術型中小企業創業投資導入基金を設立。
- 2008年、科学技術部、財政部および**国家税務総局**が『**ハイテク企業認定管理規則**』を発布。





たいまつ計画の発展経路と取得成果

1. 体制・メカニズムを構築し、中国の市場メカニズムに沿ったハイテク産業化発展環境の速やかな形成を推進

すでに56の国家ハイテクパークを設立

- 614の科学技術企業インキュベータ、62の国家大学科学技術パーク、1,425の生産力促進センター、181のたいまつ計画特色産業基地、34のたいまつ計画ソフトウェア基地、76の国家技術移転モデル機関等で構成されたハイテク産業化サービス体制を形成した。
- 全国31省・市に分布する地区イノベーション基金と10の地区創業リスク投資導入基金を設立した。



たいまつ計画の発展経路と取得成果



2. 組織のモデルにおけるイノベーションを推進し、中国の特色あるハイテク産業化業務体制を形成した。

- 過去20年、たいまつ計画ではハイテク産業化発展の内部需要を出発点として堅持しながら、組織の体制革新を推進し、実証済みの有効なハイテク産業化業務体制を構築した。



たいまつ計画の発展経路と取得成果



- 科学技術部と中央の各関係部門が密接に協力し、中国の市場メカニズムに基づいたハイテク産業化に対する政策サポートシステムの構築、整備を模索し続けている。
- 次に、中央と地方が分業、協力し、全国をカバーした、上下連動のハイテク産業化業務体制を形成。たいまつ計画をキャリアとするハイテク産業化業務体制はすでに全国の都市化地域に行き渡っている。
- 中央と地方が共同で推進するハイテク産業化発展の道が確立され、中央と地方の二つの積極性がともに十分に発揮されている。





たいまつ計画の発展経路と取得成果

3. 技術イノベーションを中心に、科学技術企業の成長を促進し、中国ハイテク産業化の主体となる企業を育成した。

- たいまつ計画は常に市場をガイドとし、産学研の結合を奨励し、企業による自主的なイノベーション能力の向上を通じて発展・成長するように導くことで、イノベーション能力が高く、知的財産権を有する多くの中核ハイテク企業を育成した。
 - 聯想（レノボ）、華為、中興通迅、海爾（ハイアール）、用友、新浪、尚徳、東軟、方正、同方などのハイテク企業は、科学技術成果の産業化において大胆に実践し、良好なモデル作用を果たしている。
 - 同時に、たいまつ計画は多くの知的財産権所有の技術の誕生を促した。例えば大唐電信のTD-SCDMA通信技術、百度のインターネット中国語検索エンジン技術等、中国が最先端技術を擁し、先進国の技術封鎖と独占を打ち破り、経済発展のパイオニアとなるよう推進している。
 - 1991年の2,000社から2007年には56,000社まで増加し、国家ハイテクパークだけでも年間営業収入が1億元を超えるハイテク企業が3,100社以上となっている。



たいまつ計画の発展経路と取得成果



- たいまつ旗印の下にある科学技術型中小企業技術イノベーション基金は1999年に設立後、知的財産権所有、高成長性、高付加価値、大量の雇用創出能力、省エネ・消耗削減、環境保護および輸出による外貨獲得等の各種企業を優先的に支援している。
 - 2007年末において、中国でイノベーション基金を申請した科学技術型中小企業は4万余社あり、全体の4分の1以上を占め、そのうち資金支援を受けた創業企業は11,980社を超えた。上海と深センの両資本市場において、イノベーション基金とたいまつ計画プロジェクトを引き受けたことのある企業は全上場企業の5分の1を超えている。



たいまつ計画の発展経路と取得成果



4. 科学的発展を堅持し、中国の新興産業の盛んな発展を推進し、経済発展方式の転換と地方の新たな経済成長点の育成に重要な貢献を行った。

- 全国ソフトウェア産業はたいまつソフトウェア産業基地の推進の下で迅速な発展を成した。2007年、34のたいまつソフトウェア産業基地ではソフトウェア収入が3,485.5億元、ソフトウェア輸出額が56.5億ドルに達し、それぞれ全国の59.7%と55.1%を占めた。
- たいまつ計画は環境保護・省エネ産業の全体規模を迅速に拡大した。太陽エネルギー、風力エネルギー、エコ電池等を含む新エネルギーや高性能コンピュータ、大中型デジタル交換機等のハイテクが産業化された。



たいまつ計画の発展経路と取得成果



4. 科学的発展を堅持し、経済発展方式の転換と地方の新たな経済成長点の育成に重要な貢献を行った。

- 国家ハイテクパークはたいまつイノベーション資源の集中エリアとして、過去20年に自然生態、企業と社会の調和的発展をほぼ実現し、中国の特色ある新型工業化の道とイノベーションの道の先駆者となり、地域経済成長を推進、支援する主体的役割を果たした。





たいまつ計画の発展経路と取得成果

5. ハイテク産業化の人材を育成し、イノベーション文化を繁栄させ、中国のハイテク産業化発展の社会的基礎を築いた。

- 多くの科学技術者、創業者、企業家、管理者がたいまつ計画の旗印の下に集まり、大規模な産業化チームを形成した。
 - この産業化チームはすでに中国の経済社会発展の重要な力となり、中国の国際競争力を強化し、国際的地位を高めるため、大きな貢献を果たしている。
- たいまつ計画は改革開放の実践の中で時代的特徴のある「イノベーション・創業、富民強国」のたいまつ文化を徐々に確立し、中国のイノベーション・創業文化の内容を豊かにした。
 - 過去20年、たいまつ文化の影響で、強い使命感と社会的責任感のある多くの知識型企業家が速やかに勃興するようになり、中国経済社会発展の中で大きな力となっている。

たいまつ計画実施20年の成功法



- 1つには共産党と政府の的確な指導の下、たいまつ計画は常に中国の特色あるハイテク産業化の道を堅持した。
- 2つ目には政府指導と市場での資源配置とともに重視し続け、中国の特色あるハイテク産業化の道を進むための有効な手段とした。
- 3つ目には中国の国情に立脚し、開放の中で学習し、改革の中でイノベーションを続け、中国がハイテク産業化を快速に実現する上での重要な選択である。
- 4つ目に産業発展の法則を出発点とし、科学技術型中小企業の成長支援と産業集中イノベーション能力向上を中国ハイテク産業化のための突破口とした。



中国の特色あるハイテク産業化の道



- 中国の特色あるハイテク産業化の道とは、共産党中央、国務院の的確な指導の下、「中国の特色ある社会主義を建設する」理論を指導指針とし、科学的発展観をさらに徹底し、改革開放の大背景の下、基本の国情に立脚し、中国ハイテク成果の商品化、産業化および国際化の歩みを加速することである。



たいまつ計画の今後の重点任務



企業のイノベーション能力の向上を
中核とし、イノベーション環境の構築
と産業化発展の促進を主幹とし、科学
技術型中小企業群とイノベーション群
の発展を重点としてたいまつ計画を
実施し、技術市場の発展を促進し、科学
技術型中小企業イノベーション基金を
整備・実施し、かつ国家重点新製品計
画、技術イノベーション導入プロジェ
クトと協力して運用し、ハイテク成果
の商品化・産業化および国際化を促進
する。



たいまつ計画の今後の重点任務



1. 国家ハイテクパークの整備を重点とし、ハイテク産業化のマクロ的發展環境をさらに最適化する。
2. 「育苗造林」プロジェクトをさらに実施し、公共サービスプラットフォームの整備を推進し、ハイテク企業に対してインキュベータ育成、成長・強化および集団発展の段階での系統的サポートを提供する。
3. 科学技術金融促進行動をさらに実施し、中国ハイテク産業化のための投資・融資体制をより一層整備する。
4. 技術移転促進行動をさらに実施し、ハイテク成果の移転と普及を推進する。
5. 科学技術振興・貿易促進行動をさらに実施し、ハイテク企業の海外進出を推進し、中国ハイテク産業の国際的競争力を大幅に高める。
6. 関係資源の手配と集積を行い、ハイテク産業を發展させ、中核となるための集積を形成する。



ご清聴ありがとうございました

唐鳳泉

科学技術部たいまつハイテク産業開発センター
計画財務処長

